

みえを歩こう

豊かな海・山の自然の中を歩き  
地域の信仰・歴史・産業に触れるコース  
南伊勢町

# 宿田曾の浅間山から「ボラ番小屋跡」へ

熊野灘に面した美しい海と、緑豊かな山々に囲まれた自然あふれる南伊勢町。リアス式海岸沿いに数百メートルの山々が連なり、熊野灘や入り江が見渡せる絶景スポットが数多くあります。今回訪れたのは、志摩半島・五ヶ所湾の先端にある宿浦・田曾浦地区です。かつて遠洋漁業が盛んで、特に田曾浦は全国のカツオ一本釣り漁船の3分の1を占める、日本一のカツオ一本釣り漁業の郷として知られた場所でもあります。コースの中では、地元の住民の信仰を集める浅間山や、漁業の最盛期に使われていた「ボラ番小屋」など、地域の文化・歴史・産業に触れるコースを歩きます。なおコース内には舗装されていない登山道も含まれているため、登山用の装備をされていくことをオススメします。取材・文：中川絵美子



「宿浦区民センター」



カマの池



宿浅間山の登山口



正面に葛島を見渡せる

## 漁村の集落からウバメガシの林を歩く

今回の散策の起点は「宿浦区民センター」。宿浦漁港のすぐ近くの高台にあります。(バスの場合は「宿浦漁協前」下車すぐ)宿浦の集落を通り抜けるとカマの池という大きな池が見えてきます。海とつながっており「暴風や高潮から船を守るためにつくられたんかなあ」と坂本さん。穏やかな水面に停泊する漁船を眺めながら目の前にそびえる宿浅間山へと足を進めます。集落の外れに山

の斜面に沿ったコンクリートの階段が見えてきました。ここが「宿浅間山の登山口」です。階段を登りきると山道に入ります。いっきに登るので汗がふきだしてきますが、木漏れ日の道を無理せずゆっくりと進みましょう。道の両脇にシダの生い茂る道をしばらく登っていると、展望のよい場所に出ます。振り返ると正面に葛島や太平洋が見渡せます。まだ少し登りは続くので、休憩しながら進みましょう。尾根が近づくにつれ、登山道はウバメガシの林となります。南伊勢町の各地に自生するウバメガシは

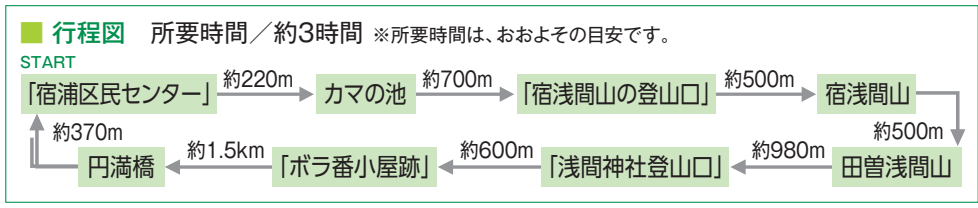
海近くの環境で育つ常緑樹で、潮風に耐えて育つため密度が高く硬くなり、良質な備長炭の原木として知られています。ウバメガシのトンネルは、南伊勢ならではの風景といえるでしょう。登山口から約30分で尾根道(宿浅間山と田曾浅間山の分岐)に到着。ここから宿浅間山までは尾根沿いに約5分です。

## 地元の信仰を集める2つの浅間山

宿浅間山(181メートル)にはコンクリートでつくられた祠があります。昔は遠洋漁業に出た家族の安全を祈願



今回ご案内いただいたのは、「南勢テクテク会」会長の坂本 和敏さん。今年設立29年を迎える同会は、ふるさと発見と健康づくりを目的に、月1回程度南伊勢町周辺の登山を楽しんでいます。





「ボラ番小屋跡」



田曾浦漁港



遠洋漁業で有名な地域



宿浦と田曾浦をつなぐ円満橋

静かな中にも遠くから響く波の音やトビの声が聞こえ風情のある光景です。この地域では、かつて4月から6月になるとボラの大群がやってきて、そのボラの通り道を見張り、網をたぐる「ボラ待ち網漁」が行われていました。漁の際には田曾の人々が総出で舟を出し、網を張り、大漁に湧きたったそうです。この小屋は、ベテランの漁師がボラの大群を見張った場所です。大群を見つけると山道を通り、寺の上のオメキ山から里人に知らせるために大声で「喚いた」と伝えられています。「ボラの大群が来た日には小学校も休みにな

り、子どもたちも手伝いをしたそうですよ」と坂本さん。ボラ漁が衰退し、この小屋も石組みだけが残っていましたが、平成13(2001)年に地元の人たちと「南勢テクテク会」が協力し、屋根をつけて復元椅子なども設置し、登山客などが足を運びやすいように整備しました。帰りは田曾浦の集落までしばらく山道を歩きます。途中、山の中にもかつての畑の跡がたくさん見られました。「ここまで畑仕事しにくるのも大変だったやろなあ」と坂本さん。周囲が竹林になると田曾の集落はもうすぐ。集落へ出たら、

漁港まで降りて海沿いに戻りましょう。途中の道沿いには「日本のかつお村」と書かれたモニュメントや「遠洋漁業の里」と記された石標も見ることができます。「宿田曾漁港」から円満橋を過ぎると宿浦の集落に入ります。ゴールの「宿浦区民センター」はすぐそこです。南伊勢の海・山の眺望を楽しみ、地元産業や歴史、信仰にも触れることができます。コースです。  
\*バスの本数の少ない時間帯がありますのでご注意ください。  
**問「南勢テクテク会」** 会長 坂本和敏さん  
TEL 090-33300-8766



宿浅間山・山頂の祠



田曾浅間山・山頂の祠



田曾浅間山の登山口

しに、地元の人達がお参りしていたそうですよ」と坂本さん。南伊勢町では約30の集落に富士山を信仰の対象とする浅間山(神社)があります。集落の裏山を富士山に見立て、山頂に祠や碑(浅間碑)をつくり木花咲耶姫や大日如来が祀られています。6月から7月にかけては、五穀豊穰・大漁祈願・無病息災を願って「浅間祭」が行われる地域もあり、地域に根付いた神聖な山々です。お参りした後は田曾浅間山へと向かいます。尾根道沿いに少し戻ります。木にまかれた赤い目印テープに沿って

歩いていくと、約15分で田曾浅間山(163メートル)に到着。こちらでも白く塗られたコンクリートの祠があります。地元の方々が丁寧に管理されているのが伝わってきます。お参りをしたら、下山ルートに向かいます。途中、展望の良い場所があり、椅子が設置されています。真っ青な太平洋や御座白浜、浜島などの志摩半島を見渡すことができ、海と山に囲まれた南伊勢の自然の雄大さを感じることが出来ます。さらに降りていくと、山道からコンクリートの舗装路に代わり、周囲に山の斜

面に沿って作られた段々畑の跡が見えてきて、かつての生活の跡を見ることが出来ます。「この地域は平地が少なく、耕作できる土地が少なかったたので斜面を拓いて畑にしていたんですよ」と坂本さん。コンクリートの階段を降りると、国道260号沿いにある「浅間神社登山口」と書かれた石標がある田曾浦地区からの登山口に出ます。ここまでの所要時間は約2時間。そのまま国道260号沿いに歩けば出発地点に戻ることができます。時間と体力に余力のある方は、もう少し歩いて「ボラ番小屋跡」へと向かいましょう。

### 太平洋の水平線広がる「ボラ番小屋跡」

「ボラ番小屋跡」へは、国道260号を横切り、田曾浦の集落の方へ向かいます。穏やかな二つの浜を通り過ぎ、山道へと入ります。30分ほど歩くと、前の崎の突端に石積み小さな小屋が見えてきます。「ボラ番小屋跡」です。海側は絶壁で、眼前には太平洋の水平線が広がります。